

【参考】 ため池を活用した雨水貯留の取組

【現状認識】

県内には、農業用ため池が1,800 余りあり、その全体の貯水量は、約3,000 万立方メートルになります。このうち、「防災重点農業用ため池※」が653 箇所、県全体貯

水量の約8割（2,460 万立方メートル）を占めています。

ため池の貯水位を下げ、空き容量を確保することにより、降雨時の流入水を一時的に貯留させ、河川への流出量を抑制することができます。

※ 決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池

【期待できる効果】

ため池に流れ込む雨水を一時的に貯留することにより、河川のピーク流量を抑える効果が期待できます。

多くの関係者が取り組むことにより、洪水被害や内水氾濫による浸水被害の軽減に繋げることができます。

【イメージ】

